

ある意味この夏の重心が移動してきたかのような暑さの小樽。9月に入り『小樽・鉄道・写真展』も折り返し地点を回り、後半が始まっています。

このフリーペーパーをお手に取っていただいている時間、ここにはどんな風が流れていますか？

小樽の街中を貫く鉄道の跡地を舞台としたこの写真展。会期中24時間、朝・昼・夕暮れ・夜・真夜中、そして明け方…訪れる時間毎に違った表情を見せる空間は、僕の知る限り他にない、ここにしかないものです。ここに足を運ぶ人の数だけの『鉄道展』があります。

一年50週間のうちの2週間。夏の終わりのこの2週間は、その中でも特にドラマティックな気がします。ある日、風の匂いや肌触りが変わるのを感じます。それまでの夏の陽射しがやわらかくなり、夜風にこれから始まる季節を予感させられたり。その瞬間がいつやってくるか今年はやがて読めないのですが、でも『鉄道展』はこの時期にやっているからこそいいんだよなあ、と思っています。

季節の折々に歩く小樽の街に流れる風が、この2週間につながっている。この一年、小樽の街の光景も少しずつ変化してきました。

5号線の花園のガード下、川の上にあるかまぼこ屋根の妙見市場のうちの一棟がこの春姿を消しました。歩道橋からの俯瞰で於古弐川(おこぼちがわ)なりに続いていく姿も変わり、数十年振りに姿を見せた流れが新たな街の景色になっています。他にも南小樽駅の上の量徳小学校も更地になって数年後には市民病院が引っ越してくる予定です、入船町から堺町の"メルヘン交差点"にかけては古い蔵と木造建築がここ数年いくつも解体されています。

遠ざかっていった光景も、たくさんあります。でもその場所に立つと、はっきりとここに何かあったかを思い出すことができます。あの瞬間に撮っていたからだと思います。

もともと小樽生まれ、北海道生まれではない僕だけど、でもこうして写真を撮ることで、自分にとっての小樽というものを心の中に持つことができるし、その、自分に撮っての小樽ってなんだろ、そして写真を撮るってどういうことだろう…ということにも思いを馳せ、考え、何より、撮り続けられるのです。撮り飽きないのです。

この街はいつも僕にたくさんのインスピレーションをくれます。いつもそこに小樽がいるからこそ、僕は何度もこの街に足を運び、歩き続けるのだと思っています。

2012年の、いつもより長い夏。濃く長い影の色が秋のそれに変わるには、もうちょっと時間が掛かりそうです。

そんな時間をこの街で、この鉄道の上で過ごせることに、喜びを感じる僕です。

Webでもお読みいただけます [www.yuukiuryu.com/otaru2012/](http://www.yuukiuryu.com/otaru2012/)

僕の作品、そしてこのフリーペーパーへのご感想・メッセージを、本誌と同じ箱の中の感想ノート、または下記のメール・Twitterに、ぜひお寄せください。

『tetsurocafe』は、瓜生 裕樹の『小樽・鉄道・写真展』の”お持ち帰りいただける作品”です。9年目の発行となる今年も、第1週と第2週、計2号を発行しました。今年も『鉄道展』に足をお運びくださり、そして、僕の作品に足を止めてくださり、ありがとうございます。また来年も、夏の終わりのこの鉄道でお会いしましょう！

tetsurocafe2012 vol.2 2012年9月3日発行

発行者 瓜生 裕樹 ウリュウ ユウキ

[www.yuukiuryu.com](http://www.yuukiuryu.com) [hello@yuukiuryu.com](mailto:hello@yuukiuryu.com) Twitter [@yuukiuryu](https://twitter.com/yuukiuryu)

© Yuuki URYU 2012 All rights reserved.



小樽はいつもそこにいる

Take it FREE!

ご自由にお持ち帰りください

2

tetsurocafe  
Yuuki URYU's Extra Free Paper  
for "2012 Otaru Tetsuro Shashinten"  
2012